選　抜　方　式

1　一般入試方式

共通１次，２次試験，調査書及び健康診断などの判定資料を総合して，合否が判定される方式である。58年度も第２次募集に関する研究が多く関心の持続がうかがわれた。

(1)　２段階選抜

千葉大学では，54年度の研究で，第１段選抜倍率は４倍が適切であるとの結論を得た。しかし最近２次試験の配点比率が高められる傾向に鑑み，その比率を１次試験の1.0～1.2倍とした場合のシミュレーション研究を行った。その結果，一部の志望類別では第１段選抜倍率を４倍より高く定める必要があるようにみられると報告している。

(2)　総合判定方式

東京外国語大学では，合否の総合判定における総点主義と特定科目成績優秀者優先主義のいずれが入学後の成績に照らして妥当性が高いかを検討した。その結果，２次の総点が上から３分の１以下であっても，２次の英語・国語・世界史のいずれか特定科目が上位３分の１以内の高得点者は，入学後の成績は一般に入学者全体の平均点より高いことが判った。信州大学経済学部は，58年度に枠別入学の判定方式を採用したが，入学者の勉学と生活の実態を追跡調査している。

(3)　第２次募集

58年度に定員留保の２次募集を実施した国立大学は，19大学（20％）25学部（７％）で前年度に比べ漸増傾向にあった（国公立大学ガイドブック　昭和60年度版）。

第２次募集に関する研究は13大学と大学入試センターにみられたが，主な内容は次のとおりである。①鳥取大学が全国公立大学に対しアンケート調査をした結果，実施形態は54年度以降欠員補充型から定員留保型に移った。また中国５県と兵庫県下の全高校調査の結果，85％が２次募集の実施を望み，形態は定員留保型の要望が多かった。勝木喜一郎（室蘭工業大学）の発表では，新入生調査の結果，２次募集を好ましいとする者は50％台，学力検査を課さず共通１次成績による選抜方法は変更する方がよいとする者が50％台，そのうち学力検査を課すのがよいとする者は75～80％であった。②２次募集による入学者の共通１次試験を中心とする入試成績を１次募集入学者と比較した研究は多い（小樽商科大学，福島大学経済学部昼間主コース，福井大学工学部，静岡大学理学部，滋賀大学経済学部，山口大学経済学部等）。清水留三郎(大学入試センター）の共通１次試験受験者全部を対象とする分析によると，定員留保による２次募集について，１次募集入学者の上４分点より高成績の２次募集入学者の割合は，大多数の大学で４分の３を越えた。また，共通１次の社会・理科の科目選択率と平均点，判定基準を変えた

場合の合否の変動，２次募集学力検査と共通１次の成績の相関係数などを検討した大学もある。③２次募集入学者の入学後の成績や学習・生活の状況を追跡調査した大学も少なくない（富山医科薬科大学等）。教養課程の成績については１次募集入学者より概して優っている（鳥取大学）。留年・退学が高率である（福島大，山梨大学工学部）。また，旧高商系の４経済学部（小樽商大，福島大，滋賀大，山口大）は共同研究により２次募集入学者の意識，学習や生活の実態，入試の志望先や成績などについて調査し，２次募集の成否を検討した。

2　推薦入学方式

58年度に推薦入学を実施した国立大学の学部は，昼間部78学部(23％)，夜間部14学部(78％)で(文部省大学課調)，微増であった。これに関する研究は今回も10大学以上に上った。

(1)　成績調査

共通１次，２次試験の入試成績，高校調査書の成績，入学後の学内成績を，推薦入学者について，また推薦入学者と一般入学者を比較しつつ調査した大学は少なくない（図書館情報大学，山梨大学，富山大学，愛媛大学等）。そのうち，福井大学では，①県外出身者が多く，出身地が広域にわたる。②共通１次の成績は一般入学者よりよく，特に推薦入学者の枠を４・５名にしている学科で著しく上回っている。③推薦では不合格であったが一般入試を受け直して合格した者まで含めると，推薦入学志願者の合格率は46％に上る好成績である，とのよい結果が出ている。

また，推薦入学方式の採否を検討するため，一般入試合格者の高校調査書等の妥当性や，選抜方法・問題点等を調査した大学もある。

(2)　意見調査等

愛媛大学は，実施経験をフィード・バックするため全教官の意見調査を行った。北見工業大学では，57年度の教官意見調査結果を参考にして，入選研で検討した結果，大要次のような結論をまとめた。①推薦入学者の学内成績は一般によく，特に工業高校出身者の場合は向上が著しい。②学力評価は，高校成績を基にして面接や高校との信頼関係の改善により可能なので，共通１次を課する必要はない。③定員枠は学科別に決める。④出身高校の指定は，学科別の指定のみとする。⑤面接について，委員構成，学力試問を含む方法の改善をはかる。

3　特別入学方式

社会人入学・学士入学のための特別選抜を検討した大学もあったが，今回は帰国子女の特別入学を検討した大学が目立った。後者の検討の結果，新たに実施を決めた大学，実施の拡大を検討した大学が少なくなかった。最近，特別入学方式を採用する国立大学は著しく増加しつつあり，60年度には，帰国子女の特別入試を21大学52学部が，社会人の特別入試を11大学11学部が実施することになっている（大学入試センター調)。